

学校だより

しずえ

甲斐市立双葉東小学校

平成21年6月9日号

無事帰ってきました！！～6年生修学旅行～

5月27日（水）4時30分起床。2階の窓を開けると、冷ややかなみどりの風が香り、凜とする。夜明けを待っている山々、小鳥たちのさえずりも聞こえてくる。おもわず「修学旅行に行ける！」と叫んだ私であった。女房がビックリ立ち尽くし、そして微笑んでくれた。

新型インフルエンザの発生のために、日本中大騒ぎになっていた。とりわけ修学旅行の季節なので日本中の小中学校がびりびりしていた。甲斐市においても対策本部が設置され、その指示によって休校措置など行動が規制されることになった。日常における校長判断などとはレベルの桁違いの事態であった。そのため、出発直前の修学旅行延期や、旅行中の帰校命令が出された市町村もあった。涙した子どもたちがいたとも聞く。その判断が正しかったかどうかは時間が経るごとに明らかになることだろう。『子どもたちの夢や思いを出来ることなら実現させたい』何度か委員会へ足を運んだが、校長の思いも委員会の思いも同じであった。そんな思いが通じたのか27日の朝まで電話がかかかってこなかった。甲斐市の判断に感謝した。

6時15分には6年生73名全員揃った。青空の下、玄関前で出発式を行い『元気に行って来ませう』と保護者・教職員の見送りの中出発した。

10時、予定通り鎌倉円覚寺に到着し、1日目の見学が始まる。1日目は円覚寺から高徳院大仏前まで班ごとの自主見学。そして新江ノ島水族館見学、海岸散策をほんの少ししホテルへ。2日目はあいにくの雨であった。日産追浜工場を見学し、横浜中華街で昼食をとり東京タワー・国会議事堂見学をしホテルに到着。3日目もあいにくの雨であったが、子どもたちの人気ナンバーワンの場所だけあって目を輝かせてキッザニアに向かう。5時間の模擬職業体験を終え一路学校へ。なんと甲府盆地に入ると無事の帰校を祝うかのように太陽が旅行団を歓迎してくれた。予定時間通り学校へは17:45到着。そこにはたくさんの保護者の皆さんや教職員が待っていてくれた。通常の修学旅行に増して心配をかけただけに、花を咲かせたような多くの笑顔に囲まれながらの『無事帰ってきました！』のあいさつになった。

今回の修学旅行の特徴を3つ挙げてみたい。

- ① グルメの修学旅行であった。修学旅行3日間で和食・洋食・中華料理を堪能した。特に1日目の『鎌倉パークホテル』はグレードの高いホテルであった。豪華なシャンデリアのある大広間で、テーブルマナー学習をしながらの夕食であった。見学地の学習はもとより、食についての学習も出来、子どもたちにとっては満足度の高い修学旅行になったはずである。
- ② 統制のとれていた旅行団であった。5年生から持ち上がりの担任、水上・高見澤先生だけに、2人の阿吽の呼吸で修学旅行を終えることが出来た。年の差はあるが二人は雰囲気良く似ている。そして、子どもたちの担任に寄せる信頼は抜群である。どちらかというといわゆる『すっちょない』が、時々見せる笑顔が子どもたちの行動のバロメーターになっていることを発見した。ただ、子どもたちは、添乗員にもたびたび指摘されていたが、なぜか歩行になると、どの場所においても列が乱れていた。
- ③ 渋滞に出くわさない修学旅行であった。運転手さん曰く「こんなにすいているのは初めてですよ」。見学地への出発・到着がまさに時間通りに行われた。新型インフルエンザ効果？なのか、この修学旅行の時期なのか、とにかくありがたかった。

問題がまったくなかったわけではない。自主見学の最中お腹が痛くなり、仲間と別れタクシーで集合場所に搬送された児童。ホテルに到着するや否や、興奮のあまりどの部屋に自分の靴を脱いだかも忘れてしまい、全員の夕食時間を延ばした児童。はしゃぎすぎ、宿泊部屋の障子を破ったり、ドタバタし過ぎて階下の一般客の部屋をかえさせた児童、等々。まさに一生の思い出に残る、修学旅行ならではの出来事であった。

名ばかりの団長の下、無事修学旅行を終えることになったのも、2名の担任はもちろんのこと、会計・記録・



円覚寺に到着↑



国会見学を終えて↑

雑務を担ってくれた白倉・久保田先生、保健救護の堀之内先生、そして実質的に団を率いていた添乗員の藤原・安田さんのおかげである。そして何より、笑顔が素敵な、眼が輝いていてどこへ行ってもあいさつの良く出来た、礼儀正しい73名の子どもたちに感謝したい。

新型インフルエンザが国内でも発生し、不安の中、事前の健康観察を万全にして、出発しました。見学地ではさすがにマスクをしている姿も一時に比べると減り、さわやかな天気の中、全ての工程を予定通りに終えることが出来ました。鎌倉自主見学では、友達と協力しながら歴史ある史跡を探索し、江ノ島水族館では、イルカのショーや巨大水槽に目を奪われ感嘆の声を上げていました。三日間の中でも一番人気だったのは、キッズニアでした。様々な体験が出来、将来の職業選択の幅も広がったようです。(6学年主任：水上幸子)

林間学校を終えて

第5学年主任 清水善弥

6月1日(月)、2日(火)の2日間、北杜市の八ヶ岳少年自然の家で、林間学校を実施しました。

5学年児童101名、全員が元気で参加しました。心配していた天候にも恵まれ、計画していた活動のすべてを予定通り行うことができました。子どもたちは、事前学習において、活動ごとに分担を決め、活動内容を調べ、それをしおりにまとめ、プレゼンテーションを行ってきました。家庭科では、シチュー作りも体験しました。学校に集合した子どもたちの顔には、初めての宿泊体験にワクワクしている様子が伺えました。

1日目の活動は、野外炊事、冒険ハイク、キャンプファイヤーでした。

野外炊事が、始まるものすごい勢いで、活動を始めました。かまどで火おこしをする子、野菜を洗い、慣れた手つきで野菜を切る子、お米を研ぎ始める子とそれぞれの分担に分かれて、炊事に熱中していました。子どもたちの手際が良かったのは、やはり、事前の学習の賜物であろうと思います。なんと、「いただきます。」をしたのは、予定より40分も早い時間でした。焼きつけに牛乳パックを使ったのも功を奏したと思います。

普通は、火力が出せなくて、苦勞するのですが、火が付きやすく、火もちもよく、便利でした。カレーの味は、それぞれの班でいろいろでしたが、子どもたちの笑顔が何よりでした。

冒険ハイクは、楽しみにしていた子が多い活動でした。職員は、危険個所に待機し、子どもたちが来るのを清里の寒い森の中でじっと待っていました。子どもたちは、ポイントに着くと、友達の手をひっぱりあげてやったり、お尻を押してやったり、手のつき場所や足の置き場所を一生懸命に指示してあげたり、文字通り助け合って、協力しあって、各ポイントをクリアしていきました。競争ではないから無理をせずできるところにチャレンジするよううにと指導したので、危険もなくスムーズに進められました。道に迷って班もあったよう



幻想的な雰囲気↑

ですが、それも大切な勉強でした。

キャンプファイヤーでは、団長の教頭先生と係の子とが火の女神や守りになって、はじめの儀式を行いました。「希望の火」「友情の火」「協力の火」「感謝の火」「勇気の火」「健康の火」の6つの火を火の女神から授けていただきました。子どもたちの心には、確実に6つの火が灯ったことと思います。第2部では、ゲームや歌を歌い、盛り上がりました。特に、体育で事前に学習していた「マイムマイム」「ジンギスカン」のフォークダンスは3回も繰り返しました。楽しいひとときでした。

宿泊の各部屋では、初めて友達とともにする夜を満喫していました。お風呂に入るのが本当に楽しそうでした。10時消灯でした。子どもたちは、1日の活動で、きっと疲れていたのでしょう。本当にぐっすり休みました。本当にはじめのある素晴らしい子どもたちでした。

2日目の川俣川絵図ハイクでは、2つの班が、県営牧場に向かう道に迷い込んでしまいましたが、途中で気がついて本来の道に戻り、無事に目的地の清泉寮に到着できました。川俣川の溪谷を友達と協力し合って歩いたこの経験と清泉寮で食べたソフトクリームの味は、きっと子どもたちの心の深いところに刻み込まれたことと思います。とてもよい学習になりました。

学校に到着するまでのバスの中では、熟睡している子もいて、活動に熱中して取り組み、満足できたんだなあとうれしくなりました。

1 学年PTA奉仕作業ありがとうございました。

PTA保体部の事業として、5月23日(土)朝6時~7時の1時間、1年生の保護者を中心に奉仕作業が行われました。窓ガラス・エアコン清掃、花壇の草取りを100名を越す人数で、しかも危険を伴う作業や腰を痛めるような作業などを一生懸命行っていただきましたので、見違えるようになりました。保護者に支えられる学校を自覚し、教育への決意も新たになりました。ありがとうございました。



熱心な作業↑